



令和6年度全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの結果報告

4月18日(木)、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。また、三重県内の小学校4,5年生において実施する「みえスタディ・チェック」も同日に実施しました。その結果が公表されたことを受け、学力・学習状況についての結果分析等を行いました。その結果分析等に基づいた本校児童の現状について紹介をします。(裏面に続きます)

令和6年度全国学力・学習状況調査からみられる本校児童(6年生)の特徴

【国語】 全体的に無解答率が低く、選択式の問題では無解答率がほぼ0%でした。『思考・判断・表現』の観点、特に記述式問題の正答率が低く、記述式の問題については、一定数の児童に無解答が見られました。

(強み)「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均値を上回る正答率でした。物語文を読んで、主語として適切なものを選択する問題、登場人物の心情や人物像を想像する力についても、全国平均値を上回る正答率でした。

(弱み)「登場人物の相互関係や人物像などから物語の全体像を具体的に想像し、この物語の心に残ったところとその理由を考えて、条件を満たすようにまとめて書く(正答率54% 無解答率27%)」「話し合いの様子の一部を読んで、【和田さんのメモ】が役に立ったことの説明について、適切なものを選択する(正答率54%)」といった問題の正答率が低かったです。本校児童は、複数の情報から自分に必要な情報を取捨選択すること、資料を活用すること、文章から工夫や良さなどの、詳細を読み取ることを苦手に行っていることがわかりました。また、簡易な物語文を読み取ることはできていますが、条件をつけて作文をまとめることについては無回答が目立ち、課題が見られました。

【算数】 基本的な四則計算や比例の関係については概ね理解をしており、記述問題についても、何とか既習事項をいかして書こうとする意欲が見られました。図形領域、速さの問題についての正答率が低く、円周の長さ、円周率の関係、「速さ」の意味の定着に課題が見られました。データの活用領域でも、読解力において課題が見られました。

(強み) 選択式、短答式の問題では無解答率が低く、意欲を持って取り組んでいることがわかりました。『知識・技能』の観点では、正答率も全国平均値並みで、概ね内容の理解ができていると考えられます。

(弱み)「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する」については、全国平均値でも正答率が57%と低いですが、本校児童の正答率は50%にとどまりました。「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて2人の速さについてどちらが早いかを判断し、記述する(正答率18%)」「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、基準値を超えるかどうかを判断し、開花予想日を書く(正答率32%)」についても正答率が低かったです。多くの資料の中から必要な情報を取り出して何を問われているのかを察する力が弱く、今後は解法のテクニックや記述のコツについても学ばせていく必要があると感じました。

学習・生活状況調査からみられる本校児童(6年生)の特徴 ()内は肯定的回答率

基本的な生活習慣(朝食をとる、起床・就寝時刻)については、概ね全国平均値と同等(85~95%)でした。「自分には、よいところがありますか(87%)」「将来の夢や目標を持っていますか(86%)」は、全国平均値よりも高く、自尊心(自己肯定感、自己有用感ともいわれます)の高い児童が多いことが伺えます。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか(100%)」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか(91%)」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか(96%)」についても肯定的な回答の数値が高く、学校生活を見ていると、下級生の面倒を見たり、困っている人に声をかけたり、助けようとしていたりする場面をよく見かけます。間違った言動をしているなかまに対して指摘している場面を見かけることもあり、なかまから指摘された児童も、時間が経った後には、指摘を受け止めている状況がありました。なかま同士の気持ちを大切にできるような雰囲気を、今後も大切にしていきたいと考えています。

学習でのICT機器の活用については、授業での使用頻度が高いと感じている児童の割合が全国平均値よりも高くなっており、今後も授業での効果的な活用を創造していきたいと考えています。

「学校に行くのは楽しいと思いますか(72%)」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか(77%)」については、肯定的な回答をしている児童が少ない状況であり、気になるところです。授業中をはじめ、長い休みの時間帯もしっかりと児童の様子を把握し、教職員間で情報共有をしていきます。また、自然に囲まれた環境、お祭りや地域行事の充実、子どもを大切にしている地域風土を大切に、人と人との出会い、ふれあい、を重点に据えた学習を進めていきます。

「普段(平日)1日当たりどれぐらいの時間、①ゲームをしますか ②SNSや動画視聴をしますか(学習やゲームの時間は

除く)から、①1時間以上ゲームをすると回答した児童(91%)、②3時間以上SNSや動画視聴をしている児童(36%)は、全国平均値よりも17%ほど高く、児童の一部にゲーム依存や長時間視聴の傾向が伺え、大きな課題です。

「学校の授業以外、普段どのくらい勉強しているか」では、平日や休日の家庭学習時間は全国平均値よりも少なく、平日・休日に関わらず1時間未満が半数となっています。見通しをもって自分で学習の計画を立て、それに基づいて学習を進めていくという経験を積ませ、自ら学ぼうとする力の育成に取り組んでいきたいと思えます。

令和6年度みえスタディ・チェックからみられる本校児童(4,5年生)の特徴

【国語】

4年生は、漢字の読み書きや文法・構文など、基礎的な言語に関する事項については、市・県平均と同等か上回る結果となっています。「文の中における主語と述語との関係をとらえることができる」という出題については、市・県平均を30～35%程度上回る結果となっています。設問に関しては、「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由について、叙述を基にとらえることができる」といった内容に関して正答率が低い(29%)傾向がありました。全体的に、複数選択する問題や記述式の問題では正答率が低くなる傾向があり、書くことや読むことへの苦手意識が強い児童が多いことが感じ取れました。全体的に無解答率が低く、何かしら解答しようとする意欲や頑張りが感じられました。

5年生は、「示された文末が常体のものを敬体に書き直す」「説明の書き方の工夫として適切なものを選ぶ」という出題については、市・県平均正答率と同等の結果となっています。「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」「文の中における主語・述語の関係、修飾・被修飾の関係をとらえる」については正答率が低い(20～35%)傾向がありました。「資料を見て、4つの条件合わせて文章を書く」「資料からわかることを、つながりや書き表し方に注意し、4つの条件に合うよう文を整えて書く」という設問については、誰も正答できていませんでした。まじめに取り組む様子が見られましたが、漢字の書き取り、文章や資料の読み取り、特に記述式の問題について苦手意識を持っている児童が多く、読書や作文、定期的な確認の機会を設定することにより、定着を図っていきたいと考えています。

【算数】

4年生は、基礎的な計算の領域では市・県平均を大きく上回る結果となっています。除法の「12人の子どもにあめを3個ずつわけます。あめは全部で何個入りますか」を「わける」の部分だけで除法と判断した子もいて正答率が低く(29%)なっていました。図形、データ活用領域についても市・県平均を大きく上回る(20～30%上)結果となっていました。後半の問題で無解答が続いていて、解答に時間がかかってしまっている児童もいました。

5年生は、基礎的な計算の力は定着していますが、除法の意味、分数の意味について理解している児童の割合が低い(10～30%)の状況でした。図形の領域においての正答率が低く「図形の面積の求め方を説明する」という内容では、正答者が少なく、解答の状況から「活用の方法がわかっていない」「答えを導き出す見通しが持っていない」児童が多いように感じました。図形、データ活用領域の解答状況から、問題文を正確に読み取ること、求め方や考え方を説明することを苦手とする児童が多く、授業改善を図りたいと考えます。

【理科(5年生)】

「空気の温まり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を書く」という設問は、正答者がいませんでした。「自分の考えを持ち、その内容を記述する」といった問いでは、無解答率が上昇し、正答率も低くなる傾向がありました。どの領域別の正答率も低く、基本的な学習内容が定着していないことが明らかとなりました。問題文や資料を読み取ることによる解答については特に正答率が低く、他教科とからめながら授業改善を図りたいと考えます。実際に観察や実験を通して体験的に身につけた知識は、定着しやすいので、そういった活動も随所に取り入れていきます。

これらの調査問題の趣旨等を踏まえて(考察)～指導の工夫と改善に関わって～

- 本校児童は「書くこと」「読むこと」への苦手意識が強く、普段の授業でキーワードを示したり文字数を指定して作文に取り組みせたり問題文の重要なところに線を引いたり印をつけたりしながら、読む習慣が身につくようにします。
- 授業における焦点化児童を意識し、どの子も意欲を持って主体的に参加できる授業を創造します。
- 記述する力をつけるために、問題の解き方や考え方を説明する機会を、授業の中で効果的に取り入れていきます。
- 算数の文章題では、立式する前に図や数直線に表したり、ICTを活用して視覚的に捉えやすくしたりする工夫をすることで、設定された場面をイメージし、題意を正確につかめるような習慣が身につくようにします。

～学習習慣の確立と学力補充の充実に関わって～

- 定着に課題が見られる問題は、教育委員会作成のワークシート等を活用し、復習する時間を確保していきます。
- 自ら学ぶ習慣をつけるために自主学習を継続し、また、そのノートを校内掲示することで、学習意欲を持たせます。
- 朝学習を中心に、言語に関する事項(同音異義語・ローマ字・主語と述語等)について反復学習を続けます。
- 家庭学習の手引きを保護者に配付し(配付済)、子どもたちに自主的な学習習慣が身につくように促します。(文責 北住 昌文)